

研修報告書No. 1

聖マリアンナ医科大学病院研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

四万十町国民健康保険十和診療所

高知地域研修を終えて

今回、私は研修医 2 年目の 1 ヶ月間、高知県佐川町にある高北病院と、十和町の十和診療所で地域研修をさせていただきました。

私は 2 年間、神奈川県 of 大学病院で研修しており、市中病院での研修はありませんでした。大学病院は急性期病院であることから、必然的に急性期患者を診ることが多く、治療が終わり、自宅退院が難しい場合は療養型病院やリハビリ病院への転院することが少なくなく、転院後に患者さんがどのような環境でどういう経過をたどっているかわからないことがありました。また、地域医療についても知らないことも多く、訪問診療も行い、一般病棟、療養病棟をもつ高北病院での研修は大変有意義なものでした。

高北病院では内科病棟も受け持つことができ、初診外来や往診、出張診療所での診療に携わることができました。高北病院では内科医が 5 人おり、その 5 人で病棟から外来診療、往診を行っていました。都市部であれば内科でも各科に細分化されることが多いですが、ここでは全ての内科管理を行う必要がありました。そして、高北病院に来る患者さんのほとんどが高齢者であり、年齢層は 70-80 代が多く、入院理由としては肺炎などの感染症から低体温症まで様々でした。また、病院内では急性期の医療、退院に向けてリハビリ・栄養指導を含めた回復期の医療などについて実際に現場で見せていただき、実際どのようにリハビリ、訪問診療・看護が行われどのような患者さんがそれを利用するのかを自分で見て、理解することができました。

また、十和診療所では外来診察をメインで行っており、こちらは小児から高齢者、予防接種や慢性疾患、骨折、外傷まで内科、外科すべての分野の患者を診なければならず、各科の知識、技術を日々学び続けることの大切さとその地域、患者さんのニーズにあった医療を行うことの大切さを再認識しました。

私が研修した佐川町や十和町では高齢化が進んでおり、自宅退院をした場合、老老介護になり、様々な面で家族の負担が大きいのと思います。なので、デイサービスなどの介護施設や訪問看護などが非常に重要な役割を担っていると感じました。高齢者は慢性疾患を持ちながらも自宅等で暮らしている方が多くおり、そういった方々を地域がどのようにケアし、生活の質を向上させるためっていくかというのは高知県だけでなく日本社会全体の問題でもあると考えます。今後、都市部でも高齢化、少子化は進み、医師の専門化、偏在解消も期待できない。そのような社会情勢のなか、個人の頑張りだけではなく、家族や周囲の方の理解・協力、施設や訪問などの福祉の介入と医療機関との連携などが重要になっていくと感じました。

私の高知県での研修は1ヶ月と非常に短い期間ではあったが、看護師、検査技師といった他職種の業務内容、訪問診療、介護施設見学など本当にたくさんの研修をさせていただき、大学病院では出来ないであろう貴重な体験を多くさせていただきました。そして、地域医療、福祉について考える機会を与えていただいたと思っています。

最後になりましたが、お世話になった病院関係者の方々、地域の皆様に心より御礼を申し上げます。